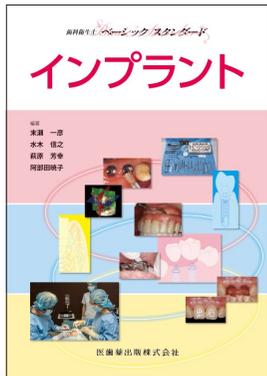


歯科衛生士のための インプラントテキスト決定版！



歯科衛生士ベーシックスタンダード インプラント

末瀬一彦・水木信之・萩原芳幸・阿部田暁子 編著

B5判/176頁 定価：4,600円＋税
医歯薬出版（2015年6月）

小林歯科医院

評・小林明子（歯科衛生士）



インプラント治療という、異物を身体に埋入させる侵襲的な処置を受けた患者さんは、さまざまな負担を抱えています。また、多くの患者さんが“もう二度と歯を失いたくない”という強い希望を持っており、それに伴う私たち歯科医療職への期待も大きいものです。

このような患者さんの思いに応えるためには安全・安心なインプラント治療の提供と、長期にわたる健康な口腔機能の維持を目指すための適切なメンテナンスが必須とされますが、その前にまず、「インプラントとは何か？」といった本質的な疑問に簡潔に答えられなければなりません。単にPMTCのハウツーを学ぶというだけでは、理想的なメンテナンスは実施できないのです。インプラントの構造といった基本的な理解から、インプラント周囲炎などをはじめとする生体の反応などまで幅広く学び、確かな知識と技術に裏打ちされたメンテナンスが

必要とされます。けれども、こんなに複雑で膨大な知識を得るには、一筋縄ではいきません。

本書の著者であり、私の友人でもある歯科衛生士の阿部田さんからある日、「インプラントの本を出したから感想を聞かせて」と電話がありました。“インプラントを知り尽くしている彼女たちがつくった本とはどんなものかしら？”と期待しながらも本書を読み、驚きました。タイトルにこそ“歯科衛生士”と入っていますが、これは歯科衛生士だけに向けた書籍ではない、若い歯科医師や歯科技工士にとってもインプラント治療を学ぶうえでおいに参考になる、三位一体の指南書だと思いました。

本書は、インプラント治療において必須の知識を網羅しながら、インプラントの歴史や、CAD/CAMなど最新技術を用いた症例をとおり、インプラント治療の実際がわかりやすく解説されています。そのため、初学者でも抵抗なく読み進められるようになっています。

インプラントを取り巻く状況は目まぐるしい速さで変化しています。もしかしたら、近い将来には再生医療としての代替歯牙などが登場し、現在のインプラントは旧式になっているかもしれません。しかし、それでも私たち歯科衛生士が長期メンテナンスを目標に励んでいる限り、現代のインプラントを口腔内にもつ患者さんは存在しつづけます。どれほど技術が発達してもインプラントの基本は学ぶ必要があり、その意味で本書は、まさしく“ベーシックスタンダード”にふさわしい、すばらしい書籍です。

これからインプラントメンテナンスに取り組もうとしている歯科衛生士の方々はもちろん、これまでインプラント治療、その後のメンテナンスに携わってきたベテランの歯科衛生士にとっても、時代の変遷に対応しながら長くインプラントを学びつづけるうえで、本書はよきナビゲーターとなるでしょう。